

# 私たちは、何故今も、風力発電計画の撤回を言い続けるのか

倉内光代（滋賀山友会 / 滋賀）

福井県三方郡美浜町に建設が予定されている美浜新庄ウィンドファーム（仮称）は、標高600～800mの野坂山地、庄部谷山と芦谷山から伸びる尾根一帯に、風力発電機20～25基を設置し、最大総出力105,000kwを目指す。この尾根筋一帯には、胸高周囲3mを超えるブナの巨木が林立する。またこの尾根からの水が流れ込む耳川支流の奥谷川、甲森谷には、豊かな溪



耳川支流甲森谷の清流



美浜新庄ウィンドファーム計画地内、最大のトチ巨木

流にカツラ、トチの巨木が立ち並び、ワンダーランドとの愛称で呼ばれている。

山の尾根に風車を建設するためには、巨大な機材を搬入する道路が必要であり、高さ200mにも及ぶ風車の土台には、トラック数十台分のコンクリートを注入しなければならない。これらの工事で山は大きく改変され、保水力を失った山が崩れる危険性は非常に高くなる。下流域の洪水被害、流出した土砂による農業、漁業への被害は、長期間に及び被害額も甚大になる可能性が高い。

グリーンパワーインベスティメント（以下GPI）による風力発電計画が動き始めたのは、2020年5月。「小浜山の会」の人たちに出会ったのは、その年の10月だった。福井山岳連盟に所属するこの会は、会員数約40人で1962年創立の老舗であり、庄部谷山しょうぶだにやまに手作りの看板を掛けるなど、この山への思い入れを持つ会である。風力発電に反対する会員たちがいると聞き、ぜひ一緒と呼びかけたが、承諾してもらえなかった。11月、小浜山の会の会長に直接お願いしたが、「美浜の人たちが決めたことに、部外者の小浜の者が意見を言うことはできない。」とのことだった。

## これまでの取り組み経過

2020年10月、庄部谷山観察会を初開催。根回り直径1mを超えるブナ巨木が伐採され、一本目の風況観測塔の建設が始まっていた。



2023.4.25. 工事終了地点に伐採木は残されたまま。(余呉南越前ウインドファーム)



2021.7.2. 伐採されたブナ巨木、根回り直径1m

2021年4月、二度目の観察会で、計画地尾根上のブナ巨木を計測した。その後、滋賀山友会、滋賀労山、日本熊森協会滋賀県支部、巨木と水源の郷をまもる会、山歩きの仲間などに呼びかけ、福井県知事、美浜町長、敦賀市長、事業者 GPI に、環境影響評価方法書に関する意見書を提出した。

7月、日本熊森協会滋賀県支部のメンバーがインターネットのオンライン署名サイト（Change.org）に署名フォームを作成し、滋賀山友会のホームページを窓口にして広く呼びかけたところ、9月に署名は1万筆を突破した。

11月、福井県、美浜町、敦賀市、GPI に、美浜新庄ウインドファームの計画の見直しを求める要望書を提出。福井県庁記者クラブで記者会見し、福井新聞、県民福井（中日新聞）に記事が掲載された。その後も、住民説明会、環境審議会などを傍聴している。

また同年7月には、美浜町町会議員、GPI 地元社員よりお話を聞いた。その後、新庄区開発センターを訪問し、当時の区長・区長代理と面会し、住民に生じる可能性のある低周波障害や、奥谷川上流域にある土砂災害危険区域について説明した。

2022年7月、第25回日本勤労者山岳連盟・全国自然保護講座を滋賀県立比良山岳センターで開催し、庄部谷山で現地観察会を実施。また、野坂山地ブナ巨木群として79本を山岳ガイド・カメラマンが撮影し、環境省の巨樹・巨木林データベースに登録。

2022年8月の豪雨で、GPI が手がけるもう一件の風力発電事業である余呉南越前ウインドファーム（仮称）の尾根が崩壊し、下流の高時川に多量の土砂が流出したため、今も漁業・農業に影響が出ている。

環境影響評価準備書に対して、2023年4月に滋賀県知事・福井県知事、そして5月には経済産業省が風力発電事業の見直しを求める意見書を提出。現在、音波山付近で工事はストップしている。

2023年5月、外国資本だった GPI を、NTT と JERA（東京電力ホールディング）が買収した。

## 2年間の活動で学んだこと そしてこれから

低周波被害など健康への悪影響、土砂災害の危険性、使用されなくなった風力発電機の撤収の地元義務、福井県の冬の落雷の異常な多さ、多雪地域での冬のメンテの困難さ、台風の巨大化による想定を超える強風などのマイナス面の説明を受けないまま事業が進められている。

電力を求めるよりも、私たちの生活をより少ない電力で賄えるように変えていくことが大切なのではないか。そして、地元新庄区を支える取り組みはできないだろうか？

事業者は違うが、滋賀・福井の県境にある「三十三間山」に建設が予定されている風力発電計画にもストップをかけたいと思う。新聞報道などマスコミの力を借りて、風力発電の持つ問題をもっと多くの人に知ってもらいたい。